

イメージシェアリング

町田市立真光寺中学校 三年 李^リ有^{ゆう}吾^ご

「いつてくる。」

と僕はキッチン之母さんに呼びかける。

「ああ、未来くんの家ね。夕飯は何がいい？」

「そうだね、どうしようかな。」

何か食べたいものはあったのだけれど、思い浮かばない。そう思っていたら、

「なるほど、カレーが食べたいのね。」

そうだ、カレーが食べたかったんだ。

「うん。」

「行つてらしゃい。気をつけるのよ。」

「分かった。」

僕は玄関に近づくと、ドアが勝手に開く。僕は外に出てゆく。歩いてゆく道中に、近所のおばさんに出くわした。

「あら、今から遊びに行くの？」

と聞いてきたので、

「そうなんです。おばさんは僕の家で用事ですか。」

顔の横のディスプレイには、僕の家が映し出されている。

「そうなの。桃が余ってしまつて。おすそ分け行こうと思つていたの。」

「そうですか、ありがとうございます。」

「ほら、うれしいなら、もっと喜んだイメージをつくりなさい。」

そう言うと、おばさんは僕の家の方に歩いていった。たぶんあまり嬉しくないイメージになつていたんだろう。こんなふうに、感情や思考が言わなくても伝わるのは、「イメージシェアリング」のおかげだ。思考や感情を特殊な素材で読み取り、横のディスプレイに映し出す装置だ。どこかのベンチャー企業が開発したらしい。キャッチコピーは、「迅速なコミュニケーションをあなたに」。発売されていたばかりのころは思考が外に出るのは嫌だと言つて、つけない人も多かったのだけど、今ではつけないと何か隠しごとをしているのではないかと疑われる。全人口の九十%以上に普及しているらしい。これによって、世界

は平和になったし、発展した。腹の読み合いや駆け引きといったことをやめて、本音で語りあわなければいけなくなったし、アイディアを独占することもできないから、すごい勢いでアイディアが広まり、改良されていく。そうこうしている内に未来の家が見えてきた。僕がインターホンを押すと、ドアが開いた。中には同級生の未来の顔が見える。

「よく来たなあ。さあ、入って。」

「おじやます。」

と言いながら、僕は家に入る。玄関では、掃除ロボット「K A J I」が仕事をしていた。

「ヨウコソ」

「やあ、K A J I」

「K A J I」には、A Iが搭載されていて、会話できる。未来と一緒にV Rゲームを楽しんだ後、未来が立ち上がって、

「ジュース何がいい？」

答えるまでもなく、僕のディスプレイにコーラのイメージが表示される。

「ああ、コーラね。」

未来がコーラを2本持って戻ってきた。本当に「イメージシェアリング」は便利だ。

「ところで、好きな子とかできた？」

この質問以外は…。

審査員講評

終わり方の発想が中学生ならではの、読んでいて思わず笑顔になりました。またそこまでの展開も、情景がイキイキと描かれていて、読み応えがありました！